備陽史探訪

第36号
発行
備陽史探訪の会
福山市西深津町7-2-7
印刷所　塩出印刷

古ふんめぐり

上原　有貴

わたしは、この「古ふんめぐり」にいこうと、思ったのは、もっと社会の勉強をしたいと思ったからです。今もいってよかったな、と思っています。歩くのは、けっこうたいへんだったけでお弁当は、池の近くで食べたし、「歴史クイズ」という行事もありました。その歴史クイズで最後に六人のこった人は、賞品ももらいました。私は、三問か四問でダメになりました。だけど、分かったのは、この県には、見つかった古ふんが、五〇〇〇以上あることです。それに古ふんめぐりでは、古ふんの中に入ったりもしました。古ふんの中は、うすぐらく、ノートもとることもあまりできませんでした。古ふんのいちばんおくには、大きな石があり、その石のことを、「かがみ石」と言うそうです。それと古ふんの中は、なにかへんなにおいがしました。中でもいちばんよかった古ふんは、山のかみ古ふんでした。二ばんめによかった古ふんは二塚古ふんです。きつね塚古ふんは見つけた時は、きつねがいたから、きつね塚になったそうです。宝塚古ふんは、わたしのそう像では、宝物があったから、宝塚だと思います。それに古ふんは、石が、だいたい左右ともおなじ数ずつならんでいます。死体をおさめるひつぎといっしょに、てっけん・玉・馬具・かぶと・よろい・銅鏡・はにわ　などが、出てきたそうです。それに古ふんは、だいたい片そでとか両そでしき、むそでしきとか、あるそうです。でも、古ふんめぐりで、見たのは、片そでしきと、むそでしきでした。それから、ひつぎを、おさめる所を玄室といい、その玄室までの道のことをせん道といいます。また、この「古ふんめぐり」にいくきかいがあったら、いきたいです。

藤原　美樹子

五月五日、水曜日に「親子古墳めぐり」に行きました。

いっしょに行った人は、山本先生と、先生の子ども二人、それとクラスの友達十人で、合わせて十四人です。

初めに、福山駅まで行き、次に、近田駅に行きました。福山駅までは先生ら十四人で行き、近田駅までは「古墳めぐり」に参加した人達と行きました。

楽しかったし、つかれたし…。でも、とっても楽しかったです。それに、六つも「古墳」をまわって、いろんなことが勉強になりました。

六つも「古墳」をまわった中でも一番心に残ったのは、広島県最古の古墳といわれる「山ノ神古墳」です。最古というのに、はっきりと古墳というのが分かってすごいなあと思いました。

でも、一番最初に見た「二子塚古墳」は、説明がよく聞こえなくて、よくわかりませんでした。後から説明書を見て、だいたい分かりました。全長六十八メートルの「前方後円墳」西そで式の「横穴式石室」、びんご南部では最大の古墳、六世紀後半の古墳、など書いてあります。それに絵も書いてあって、少しは、分かりました。ほかの古墳も同じように、説明が書いてあって分かりやすかったです。

こんなところには、また行きたいと思ってます。今度は、親といっしょに。だって、すごくおもしろくって、勉強になってためになるところだからです。

わたしは、これからも歴史や古墳などのことを勉強していきたいと思います。

旧会員に告ぐ！

テレビを見ていない人に、この番組を見ろという様なものですが、多分、61年度の旧会員の方で、会費の払込みをまだ済ませていない人がいると思います。身の回りの会員の方で、会報等が届いていない方は、もう一度、会員の確認をお願いします。

会費を払って、会報をもらおう！

（ハワイ旅行は当りません。念のため）

六月例会の案内

会員 武島　種一

六月例会のねらいは田総氏の遺跡を訪ねるのを主眼とする考えでしたが、どうもこれだという具合に行かないので途中、上下町で登山を計画しました。

そこで一応予定地の見処を簡単に述べて見ます。

一、有福城跡

これは県の史跡に指定されており、竹内氏の居城であった。

（鎌倉武士）

登山は少し難儀ですが元気を出してください。

二、領家八幡社

建治元年（一二七五）創建、文亀三年（一五〇三）長井信濃守再建。

社叢は現在町指定の天然記念物、今秋県指定の予定。

夜燈　天和元年（一六八三）の銘あり　町文化財指定。

三、竜興寺（曹洞宗）

宝永二年（一三四三）田総荘地頭川平山城主　長井勝重開山、長井氏代々の菩提所で墓あり。

四、川平山城跡

大江広元の子孫長井重広が文永六年（一二六九）築城。天正十九年（一五九一）長井氏が毛利氏に従って広島に出るまで、三二〇年に渉る居城であった。

残念ながら登山困難。

五、意賀美神社（旧郷社）

式内社備後十七社の内。田総庄十二ケ村の民これを祭る。

六、臨川山法福寺（無住庵）

芭蕉句碑、文塚、麦宇翁之碑、庚申塚あり。

天然記念物モミジ群生とサルスベリもある。

七、金峯山光明寺（曹洞宗賢忠寺末）

田総荘地頭長井重継創立、夢窓国師開山。

水野勝成公ゆかりの馬具及び駕籠あり。

夫々の資料は当日お渡ししますのでお楽しみに。

案内記はこれまで。

備後戦国秘史

丹下与兵衛のはなし

田口　義之

有名なイソップの偶話「狼少年」と似た話が備後にも伝わっている。招介してみよう。

今から四百五十年余り前の戦国時代のこと、舞台は備後国宮城、宮城とは芦品郡新市町に残る中世山城跡「亀寿山城」。主人公は丹下与兵衛という宮城の侍だ。

この頃の芸備地方は出雲富田月山城に拠って山陰地方に勢力を持つ大名尼子氏と、周防山口を本拠に西中国を支配する大名大内氏との勢力争いの場で、両国内の小大名達は「朝に大内、夕辺に尼子」に従うといったありさまで両者の小競り合いは断え間なかった。

この状勢の中、宮城は尼子に従っていた。城主宮下野入道は、「備後国主」を呼号する程の有力者だから大名大内氏にとっては面白くない。大内は味方の毛利元就に命じて宮城を攻撃させた。

毛利元就は後大内、尼子を滅ぼし西国最大の戦国大名になる男だが、このころは、まだ安芸の山奥の郡山城という小城の城主に過ぎず、大内の命令を受けるとさっそく二千余の兵を率いて備後に攻め入った。

宮城をめぐって合戦が始まった。元就は府中の八尾城に本陣を置いたというから、合戦場は府中新市の間である。城方はよく戦ったが不運なことに城主下野入道は風病で急死、あとには幼ない嫡子若狭守一人が残された。

元就はどこまでも強運の男と言えよう。城主がいない城などもろいものはないのだ。ところが城は一向に落ちる気はいがない。

わけは直ぐわかった。家老丹下与兵衛が城兵を叱咤し、幼主を擁し、断固として元就と対決する覚悟を決めていたのだ。

ここから話しが始まる。

丹下与兵衛はのちの軍記物語によると「近国に鳴りひびきたる大功のつわもの」といわれ常に宮勢の先頭に立って毛利勢を撃退した。

毛利勢も丹下与兵衛の武功をよく知っていて彼を見るとくもの子を散らすように逃げた。これには与兵衛も困った。侍は敵の首を取るのが商売だ。相手にしてくれなければ仕事にならない。

そこで与兵衛は考えた。自分が負

傷しているふりをすれば敵が寄ってくるだろうと。実際にこの手はうまくいった。敵も軍功に飢えた侍だ。ケガをした与兵衛を見逃がすはずはない。与兵衛は敵兵が油断して近づいてくればガバとはね起き次々に討ち倒して行った。

しかし、好事間多しで与兵衛の運も尽きる時が来た。幾度目かの合戦の最中、与兵衛は本当に深手を負ってしまったのだ。彼は真剣に助けを呼んだ。が味方は「ああ、又与兵衛のたばかりか」と言って相手にしてくれない。この様子を見た毛利勢もいつもの手に乗るものかと、多勢で一度に与兵衛に切り掛った。本当に傷を負った彼はたまらない。簡単に討ち取られてしまった。

いつの世でも人は何度も同じ手には乗らぬものだ。

与兵衛を失なった宮城はたちまち戦意を失ない毛利元就に降伏した。時に天文三年（一五三四）十月下旬のことであった。

（参考）「陰徳太平記」

入門――古墳時代の考古学――

一、目　的

会員の皆様及び一般の人を含めて古墳に対する理解を深めて戴き、合わせて郷土の古墳を日本の歴史の中に正しく位置付け、今後の学習の指針にして戴く、さらに、古墳に対する保存と活用についても指導的な役割を担なって戴き、当会にも積極的に参加して戴く。

二、内　容

	月日(旺)	課目	講師
一	八月一日(土)	古墳時代とは	神谷和孝 備陽史探訪の会会長 近畿大学附属福山高校 社会科教諭
二	八月二日(日)	古墳発生前の墓	加藤光臣 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター主任調査研究員
三	八月八日(土)	広島県の古墳	古瀬清秀 広島大学助手
四	八月九日(日)	古墳時代の人々の生活	網本善光 笠岡市教育委員会文化課文化係

三、時　間

十四・〇〇～十六・〇〇

四、会　場

未定（交渉中）

五、受講料

会員　千円（四回分）　一回参百円

非会員　千五百円（四回分）　一回四百円

六月例会

〝甲奴郡史跡めぐり〟

●期日　六月二十一日（日）
午前八時二十分
福山駅裏キャッスルホテル前集合

●スケジュール
（別紙参照）

●講師　武島種一氏（当会会員）

●会費　会員　二五〇〇円
非会員　三〇〇〇円

●申し込み先
事務局（〇八四九）二一一―三九四〇
神谷方
六月十八日までに

※定員　四五名で締め切ります

●備考　多少、高い所へ登りますので軽装で。

6月例会予定表

武島　種一

AM 8:30	福山駅裏発	
↓		
10:00	上下町有福城跡	県史跡有福城跡見学
↓		※山道　比高100m余
11:00	同上発	
↓		
11:30	領家八幡神社	社叢（天然記念物）、社殿（町重文）
↓		
11:30	竜興寺	昼食、田総氏墓参
↓		
14:00	同上発	
↓		
14:10	川平山城跡	町史跡、田総氏居城
↓		
14:40	意賀美神社	式内社
↓		
15:00	臨川山法福寺	芭蕉句碑、文塚
↓		
15:40	光明寺	水野勝成ゆかりの馬具駕籠等
↓		
16:00	同上発	
↓		
18:00	福山着	

新入会員紹介

5月31日の住貞さんの例会で次の方が入会されました。

CONFIDENTIAL
備陽史探訪の会
個人情報が含まれるため掲載できません。

以上の5名の方です。
今後ともよろしくお願いします。

編集後記

今回は、原稿の関係で少し枠があいたのでこの半年間をふりかえって自らの反省としたい。

まず、この半年間は、会報がよく出されたという思いで一杯である。この原因は、田口副会長のスケジュール管理の賜物である。僕は、これに従っていっただけで、最初にもっともらしいテーマをかかげたのであるが、これは少しも実現できなかった。

実をいうと、あと半年間は、大まかなスケジュールしかできていないので、皆様には、少し迷惑を掛けるかもしれないと、最初に、断っておきたい気分なのである。

ここで、ちょっと僕の知識を披するならば、今のコンピュータ化の中、パソコン通信がちょっとしたブームなのである。

日本人の一年間に受取る手紙の総数は、百通余りだそうなのですが、アメリカより少ないそうです。電話で話すと手軽ですが、どうしても、頭で考えるという作業がいる場合は、文字を使って目も使うということが必要になります。そこでパソコンを使い、テレビ画面を通じて両方向で確認し合うという通信手段が、生まれてきたわけなのです。

ちょっと話がそれましたが、パソコン通信とまではいかなくても、手紙通信位は、したいなと思う次第である。

手紙のあて先

CONFIDENTIAL
備陽史探訪の会
個人情報が含まれるため
掲載できません。

と、書きましたが、皆さん気楽に手紙を出してみませんか。それに対する反応があったりしておもしろいかもしれませんよ。